

## breaking through “突破”

はるき ゆきひろ  
春木 幸裕

NTT労働組合・企画組織部長

2010年11月9日から12日の4日間を会期に、世界150カ国、2,000万人のサービス産業労働者が結集する国際産業別組織『UNI（ユニオン・ネットワーク・インターナショナル）』の第3回世界大会が、世界87カ国、約2,000名のUNI加盟組織代表（代議員・オブザーバー）と来賓・ゲスト約200名が結集するなか、長崎県で開催された。

今回のメインテーマは「breaking through（ブレイキングスルー）“突破”」。その主たる任務は、労働者を無視して拡大するグローバル経済に歯止めをかけ、新しいグローバルな労働市場の創造による雇用の創出とすべての労働者に対する「ディセントワーク」の実現をめざし、立ちちはだかる障壁を「breaking through（ブレイキングスルー）“突破”する」ための行動戦略（2010～2014）を採択すること、「核兵器のない平和な社会の実現」を求めるメッセージを、今回のUNI世界大会を通じて平和都市・長崎の地から発信することであった。

各セッションでは、各国から、UNIと多国籍企業との間での『UNIグローバル協定』の締結や多国間労組の連携による組織化・組織拡大、交渉権・労働協約など労働者権利の回復・獲得等の成功事例が報告される一方で、政府・企業からの権利侵害・組織弾圧などの実例や、2008年の世界的な経済・金融危機から今なお継続する「雇用危機」「非正規労働の増加」「貧困・格差の拡大」の実態も数多く報告された。そのうえで、世界大会の総意として、これらをブレイキングスルーするための集団闘争の展開と国際連帯の強化を力強く推し進めていく

動議が満場一致で採択された。

また、平和セッションでは、世界平和・正義・人権の確立をめざし、核兵器廃絶を含めた大量破壊兵器の廃絶と化学兵器の全面禁止、紛争の平和的解決に向けた国連憲章の遵守、武力紛争地帯での権利侵害・女性への人権侵害の糾弾と支援・保護、中東和平プロセスの進展、すべての国での民主主義と人権の尊重を各国政府に要求していくことが決議されるとともに、大会参加者全員による平和公園までの平和行進と集会も合わせて実行された。

ルールなき経済のグローバル化による雇用・労働基本権・人権・平和・民主主義の侵害を、もはや一国の力だけで解決できる状況にないことは理解しているつもりである。

しかし、職場組合員は、日々の労働や生活のなかで身近に起きている問題の本質が、グローバルな経済・金融システムの中にあり、世界レベルでの連帯と闘争なくして解決し得ない構図にあることを意識しているだろうか。残念ながら、自らが組合員に説いた経験はない。

連合は『働くことを軸とする安心社会に向けて』（案）のなかで、「国際労働運動は、相互理解と連帯によって、いかなる国においても中核的労働基準を満たしたディーセント・ワークと公平な資源配分、国家間の緊張緩和と平和の達成を重要な使命としている」と記したうえで、「ヒト、モノ、カネが自由に移動するグローバル化の中では特に、国際連帯は重要」と呈している。

世界大会に参加した経験をどう活かすか…。連合の提起を単組でどう具体化するか…。自らに課した壮大なテーマである。